

【学園理念】

インクルージョンの考え方に立ち、地域の子どもたちの最善の利益・実践のための相談システムの構築を目指します

【支援方針】

生活に必要な基本的技能・コミュニケーションの基礎を身に付け、園生活において主体的な生活を送りながら、自分らしく過ごします

まゆみ学園が目指す インクルーシブ保育

障害・特性の有無に関わらず、すべての子どもにとって安心・安全・満足感を得られる環境・活動・関わりができるよう、幼児教育・保育・療育が一体となり、子ども達一人ひとりの健やかな育ちを支える体制作りを行います。

職員が互いに連携し、園全体での話し合い体制・チームワークを大事に、配慮が必要な子どものための保育ではなく、すべての子どもが楽しみ、環境を通し、共に育ち合う保育に取り組んでいきたいと考えております。

専門的な支援が必要な子ども、一人ひとりに応じた合理的配慮が提供され、かつ集団での関わりを経験しながら、それぞれの力を発揮できるよう、行政とも連携し、家庭や地域社会全体が豊かなものになるよう努めます。





自然との関わり生命尊重



健康な心と体

【健康・生活】

健康状態のチェックと子どもの障害特性に合わせて、保護者もしくは所属の園の担当者に、心身の状況を確認します。睡眠・食事・衣服の着脱・排泄・身なりを整える等の生活を営む上で必要となる基本的技能を習得できるように支援します。子どもの障害特性として、口腔内機能・感覚等に配慮することや、食事時の姿勢保持、自教具等に関する支援を行います。



社会道徳性・規範意識の芽生え

豊かな感性と表現

【運動・感覚】

作業療法士が一人一人の子どもを適切に評価するためNCプログラムを使用し、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図ります。感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用できるような遊び（素材遊び・ブランコ・トランポリン等）を実践し、日常生活に必要な身体能力の向上のための支援を行います。（サーキット遊び・体操等）

支援プログラム

マーブルハウスまゆみでは、専門的な支援が必要な子ども、こども園との一体的な環境の中で、それぞれの力を発揮することができるよう、インクルーシブ保育に努めています。

作成日 令和7年1月15日

社会生活との関わり

協同性

【人間関係・社会性】

身近な人と信頼関係を築き、周囲の人と安定した関係を形成するため支援を行います。子どもの発達段階や特性に応じた環境調整並びに関わり方の提案を行い、子ども自らが自発的に集団に参加し、手順やルールを理解し、遊びや活動に参加できるように、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等を通し、スモールステップで育ちを促し、協同性・社会性の発達を支援します。

言葉による伝え合い

【言語・コミュニケーション】

子どもの発達段階に応じた言葉や写真・絵カード等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行います。人との関わりと通し、共同注視の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上を図ります。コミュニケーション手段（指差しや身振り、サインなど）を選定し、環境の理解と意思の伝達ができるよう機会を積み重ね、実践していきます。障害の特性に応じた読み書き能力の向上のため支援を行います。

自立心



【認知・行動】

視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、認知機能の発達を促すために制作活動や身体遊びを取り入れます。子どもの特性に合わせて、時間や空間を本人にわかりやすく構造化します。物の機能や属性、形、色、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、認知や行動の手掛りとして活用できるように認知教材（マッチングや型はめ等）を活用し、取り組みます。生活場面（食事や衣服の着脱など）において、数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の取得のため具体的な働きかけ（声掛け）を日常生活の中で行います。

数量図形文字等への

関心感覚

思考力の芽生え



【家族支援】

- 保護者の思いを尊重し、寄り添いながら、子どもの発達支援を行います。
- 家庭での様子を丁寧に聞き取り、個別面談(心理士の同席も可能)を実施します。
- 保護者に対し、個々の特性に関する情報を共有し、こだわりや偏食等に対する家庭での具体的な支援を提案します。
- お便り・連絡帳等で療育の様子を伝えます。
- ペアレントトレーニングの実施のお知らせをします。

【職員の質向上】

- 園内・外研修・ペアレントトレーニングに参加し、専門性の向上を目指します。
- 自己研鑽、自己評価を行います。
- 虐待防止・ハラスメントに関する委員会の設置・研修実施、感染症対策委員会の設置・研修を実施します。
- 救命救急講習へ参加します。

【移行支援】

- 地域の保育、教育等の支援が受けられるようにしていくとともに、同世代の子どもとの仲間作りを図っていきます。
- 併行通園の場合は、相談支援専門員や保健師と情報を共有し、利用日数や時間等の調整を行い、所属しているこども園・保育所等との情報共有を行います。
- 障害種別に応じて設備・備品への配慮のほか、子どもや保護者との意思の疎通、情報伝達のための配慮を行います。

【行事】

- マール保護者懇談会(年2回開催)
- 療育整体(体験会・個別整体)
- ペアレントトレーニング
- 火災、地震、総合避難訓練(月1回)
- その他(クッキング活動・クリスマス会・野菜栽培、収穫体験、園外活動等)



【地域支援・連携支援】

- 保健センターや地域子育て支援センターと連携し、支援を必要とする子どもに対し、支援体制の構築を図ります。
- 自立支援協議会・子ども部会へ参加し、地域の現状把握に努めます。
- 乳幼児検討会へ事例提供し、地域との情報共有を行います。

【開所時間】

- 月～金曜日
- 午前8時00分～午後5時30分